

# 令和2年度 都城市立木之川内小学校 学校運営協議会評価報告書

4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要す

本年度の重点目標 〈1：学力の定着と向上 2：思いやりの心の育成 3：体力の向上 4：地域とともにある学校づくりの推進〉

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己評価			学校関係者評価コメント	評価
			児童	保護者	教職員		
知	① 指導方法・指導体制の工夫改善によって学力が向上しているか。 ② 読書活動の推進が図られているか。	① ○ワークテストにおいて、国語算数とも、全学年9割近くの学習内容の習得率であった。学習意欲の向上を本年度の研究の視点に入れ、一人1回以上の授業研究会を行った。また、算数の少人数指導を3年生から実施した。きめ細かな指導を行い、基礎学力の向上に努めた。 ○「授業中に真剣に取り組んでいる」、「分かりやすく授業を行っている」と回答した保護者はどちらも91%であり、昨年度よりも上回っている。今後も指導方法等の工夫改善をさらに進め、学力の向上に努めていきたい。 ○「進んで本を読んでいる」と回答した教職員は84%で、保護者は63%、児童は68%と昨年度よりも伸びている。 ② ○学校の年間目標であった4500冊を達成しており、12月までに7780冊を超えている。このことから、読書推進は図られているといえる。図書館サポーターと連携しながら、読書推進を今後も図っていく。	3.3	3.3	2.9	① ○木小は先生方の目が行き届き、一人一人にあった指導がなされている。児童も、授業に真剣で、少人数ならではのチームワークのよさがある。しかし、児童や保護者と教職員の評価の差が大きい。教職員には常に次なる目標をもって指導に当たっているからだと思う。今後も個々の学力に応じての授業は大変だと思うが、一人一人に向き合っていたきたい。 ○先生方のきめ細かな指導と児童のやる気が相まって良い結果につながっていると感じる。授業中の態度も素晴らしい。児童に寄り添って継続した指導をお願いする。 ○アンケートから、木之川内小学校の児童の消極的な性格が浮き彫りとなっている。積極的な人間を育てるために、家庭・学校・地域でどのような取組をしていけばよいか考える必要がある。 ② ○自分の興味のあるものからスタートして少しでも多くの本を手にとり、本と親しんで、読解力をつける必要がある。 ○「進んで本を読んでいる」の教職員と児童の評価の差が大きい。読書量の年間目標を現在超えているが、読書推進が児童の主眼的な活動になることを今後も期待したい。もっと読書量を増やすために、家庭でどう取り組むかの工夫が必要である。 ○「子供たちは児童は自分の考えをはっきり表現(発表)できる」が伸び悩んでいるように感じる。1分間スピーチのような本を読んだ感想などを発表する機会を継続的に行うとよい。	3.2
体	⑤ 体力向上プランに沿って計画的・継続的に体力の向上が図られているか。 ⑥ 基本的な生活習慣の定着や心身ともに健康に生活する態度が育成されているか。	⑤ ○「進んで運動し、自分の体をきたえている」と答えた保護者が63%、児童が81%と大きく伸びた。通常の体力テストは実施できなかったが、5年、6年で実施したソフトボール投げの結果は、男女とも昨年度の県平均を上回っている。今後も、体力向上プランをもとに課題となる運動を中心に取り組ませしていきたい。 ○腰骨体操や柔軟体操の継続により、体力の向上を今後も図っていききたい。 ○「早寝、早起き、朝ごはん」に心掛け、規則正しい生活を送っている。」と答えた保護者が78%、児童79%と、昨年度より向上した。今後も継続して、生活リズムの大切さを啓発していく必要がある。 ⑥ ○「自宅でゲームをしたり、テレビを見る時間が決まっている」と答えた保護者は76%、児童は60%であった。家庭での約束を守るなどについて授業や小中一貫した取組・啓発をさらに図っていく必要がある。また、参観日の学級懇談でも取り上げ、家庭内でのきまりを設定するよう啓発を図っていく。	3.4	3.2	2.9	⑤ ○体力向上においては、児童の評価も高まってきているので、今後とも体力向上プランを推進していただきたい。さらに、いろんな運動をさせる上で、教え合い等を工夫し、言語活動を充実させ、児童の意欲や体力の向上につなげてほしい。 ○運動を好み、外で元気よく過ごせることは、中学校での部活動、豊かな人間関係につながる。また、腰骨体操、柔軟体操の継続指導が必要である。 ○体力向上プランの中に家で出来る事があるのであれば、家での実施を進めてみてほしい。 ⑥ ○自宅でゲームをする時間が長い。ノーマディアの取組も、低学年は比較的守られているが、中学生が守られていない。兄弟のいる子は、上の子に影響される。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」で9割以上、「自宅でゲームをしたり、テレビを見る時間が決まっている」で、児童が8割以上の評価ができるような取組を目指す必要がある。保護者が月に1回は、児童の様子を見ることが出来る機会を設けてもらいたい。そうすることで学校・学級担任との連携が一層進むと考える。 ○参観日の学級懇談で、重要課題としてゲーム、テレビについて啓発が必要である。	3.0